

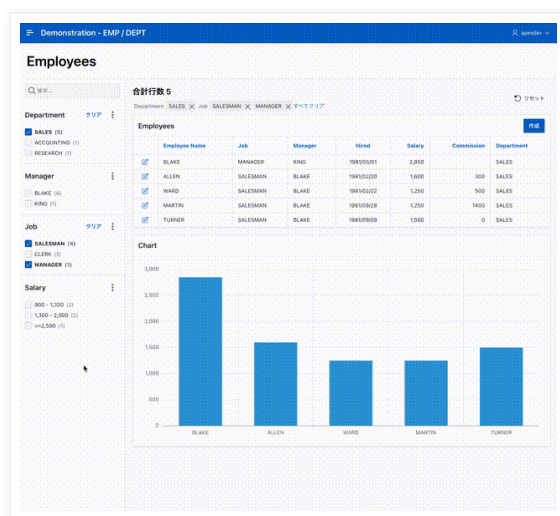
日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2020年2月21日 金曜日

ファセット検索にチャートを追加する

Oracle APEX 19.2にて新たに提供が開始されたファセット検索のページに、チャートを追加する方法をオラクルの開発者のCarsten Czarskiさんがブログで解説しています。自分でも試してみました。以下、その手順です。オリジナルの英語の内容は[こちら](#)です。



まず、EMP表のサンプルを用意します。SQLワークショップのユーティリティのサンプル・データセットを開きます。EMP/DEPT のアクションインストールをクリックします。



データセットの言語に英語を選びます。日本語を選ぶこともできます。

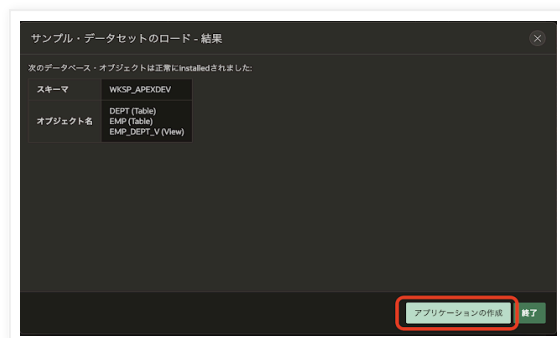
次へ進みます。



データセットのインストールを実行します。表EMPとDEPT、それとビューEMP_DEPT_Vが作成されます。



データセットがロードされます。アプリケーションの作成を実行します。



アプリケーション作成ウィザードが起動します。アプリケーションの名前はDemonstration - EMP / DEPTです。

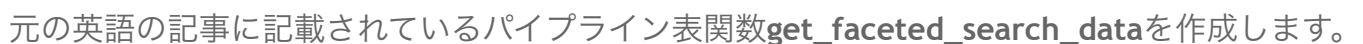
今回の作業で使用するのページ名がEmployeesのフォーム付きのファセット検索(emp)のページです。

機能はすべて使用しないため、すべてをチェックをクリックして、チェックをすべて外します。また、言語の選択を日本語に変更します。

以上で、アプリケーションの作成を実行します。



レポート**Employees**の詳細の静的IDとして**FC_EMP**を設定します。



以下のコードを実行します。

* オラクルの公式ブログに記載されているコード。

* Add a Chart to your Faceted Search Page, Carsten Czarski
* <https://blogs.oracle.com/apex/post/add-a-chart-to-your-faceted-search-page>
*/

```
create or replace type t_emp_row as object(  
    ename      varchar2(50),  
    job        varchar2(50),  
    mgr        varchar2(50),  
    hiredate   date,  
    sal        number,  
    comm       number,  
    -- the DEPTNO column is an LOV column. Thus we treat it as VARCHAR2  
    deptno     varchar2(50) );  
  
/
```

```
create or replace type t_emp_table as table of t_emp_row  
  
/
```

```
create or replace function get_faceted_search_data(  
    p_page_id      in number,  
    p_region_static_id in varchar2 )  
return t_emp_table pipelined
```

is

```
    l_region_id    number;  
    l_context      apex_exec.t_context;
```

```
type t_col_index is table of pls_integer index by varchar2(255);  
l_col_index t_col_index;
```

```
-----  
procedure get_column_indexes( p_columns wwv_flow_t_varchar2 ) is
```

```
begin
```

```
    for i in 1 .. p_columns.count loop  
        l_col_index( p_columns( i ) ) := apex_exec.get_column_position(  
                                                    p_context => l_context,  
                                                    p_column_name => p_columns( i ) );  
    end loop;
```

```
end get_column_indexes;
```

```
begin
```

```
-- 1. get the region ID of the Faceted Search region
```

```
select region_id  
into l_region_id  
from apex_application_page_regions  
where application_id = v('APP_ID')  
and page_id          = p_page_id  
and static_id        = p_region_static_id;
```

```
-- 2. Get a cursor (apex_exec.t_context) for the current region data
```

```

l_context := apex_region.open_query_context(
    p_page_id      => p_page_id,
    p_region_id    => l_region_id );

get_column_indexes( wwv_flow_t_varchar2( 'ENAME', 'JOB', 'MGR', 'HIREDATE', 'SAL', 'COMM',

while apex_exec.next_row( p_context => l_context ) loop
    pipe row( t_emp_row(
        apex_exec.get_varchar2( p_context => l_context, p_column_idx => l_col_ind
        apex_exec.get_varchar2( p_context => l_context, p_column_idx => l_col_ind
        apex_exec.get_varchar2( p_context => l_context, p_column_idx => l_col_ind
        apex_exec.get_date      ( p_context => l_context, p_column_idx => l_col_ind
        apex_exec.get_number    ( p_context => l_context, p_column_idx => l_col_ind
        apex_exec.get_number    ( p_context => l_context, p_column_idx => l_col_ind
        apex_exec.get_varchar2( p_context => l_context, p_column_idx => l_col_ind

end loop;

apex_exec.close( l_context );

return;
exception
when no_data_needed then
    apex_exec.close( l_context );
    return;
when others then
    apex_exec.close( l_context );
    raise;
end get_faceted_search_data;
/

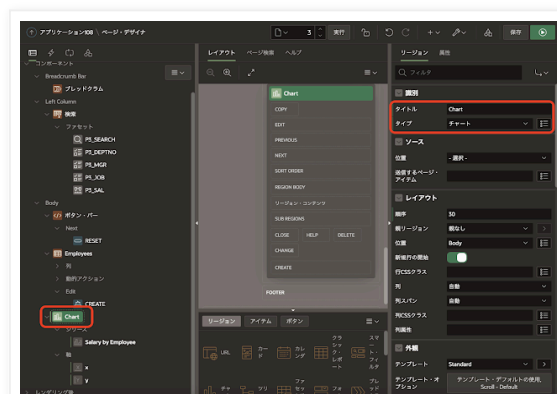
```

get_faceted_search_data.sql hosted with ❤ by GitHub

[view raw](#)

ファセット検索のページにチャート・リージョンを作成します。

識別のタイトルはChart、タイプにチャートを選択します。

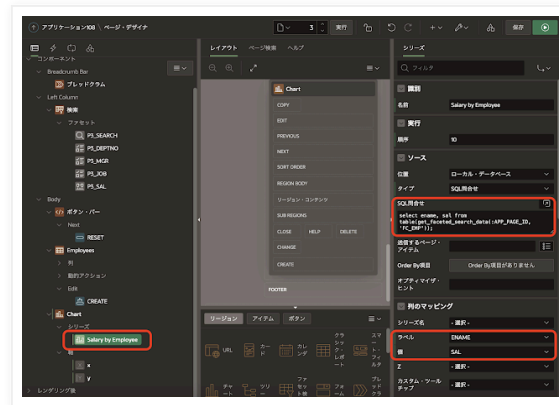


デフォルトで作成されたシリーズを選択します。

識別の名前は**Salary by Employee**、ソースのタイプは**SQL問合せ**とし、**SQL問合せ**として以下を記述します。先ほど作成したパイプライン表関数**get_faceted_search_data**を呼び出し、レポート**Employees**のデータを取り出しています。

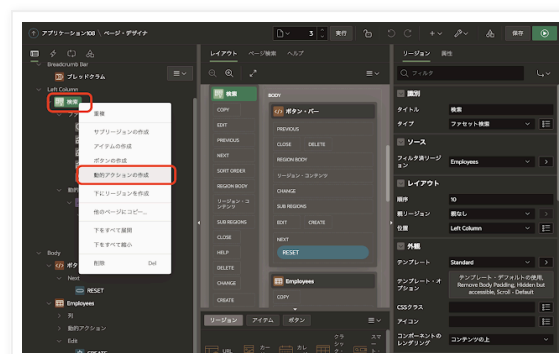
```
select ename, sal from table(get_faceted_search_data(:APP_PAGE_ID, 'FC_EMP'));
```

列のマッピングのラベルに**ENAME**、値に**SAL**を割り当てます。

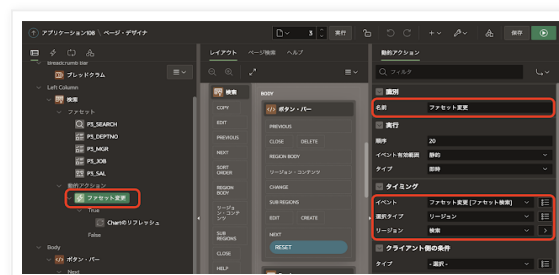


ファセットの変更でチャートがリフレッシュされるように、動的アクションを作成します。

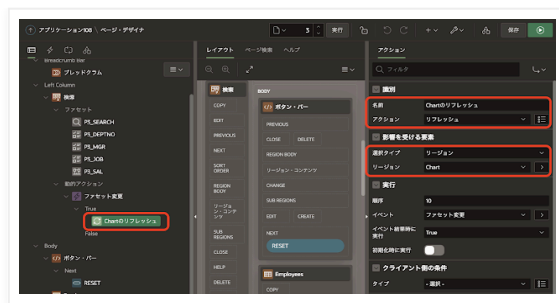
ファセット検索のリージョン検索の上で**コンテキスト・メニュー**を表示させ、**動的アクション**の作成を実行します。



作成された動的アクションの識別の名前は**ファセット変更**、タイミングのイベントは**ファセット変更[ファセット検索]**、選択タイプは**リージョン**、リージョンは**検索**を指定します。

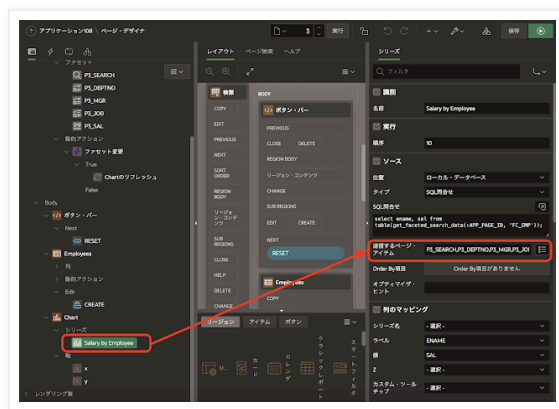


TRUEアクションの識別の名前は**Chartのリフレッシュ**とします。アクションに**リフレッシュ**を選択し、影響を受ける要素として**選択タイプはリージョン**、リージョンに**Chart**を指定します。



これで動的アクションの設定が完了したので、最後に作成済みのチャートのシリーズに、リフレッシュの際にファセットの値が渡るように設定します。シリーズの送信するページ・アイテムとして以下を設定します。

P3_SEARCH,P3_DEPTNO,P3_MGR,P3_JOB,P3_SAL



参照したCarstenのブログの内容は、このあとレポート・リージョンを非表示にして、ファセットとチャートだけを表示するようにしていますが、その部分は割愛します。

以上で作業は完了です。アプリケーションを実行すると記事の先頭のGIF動画のように動きます。

今回作成したアプリケーションのエクスポートを以下に置きました。

<https://github.com/ujnak/apexapps/blob/master/exports/faceted-search-with-chart.zip>

Oracle APEXのアプリケーション作成の参考になれば幸いです。

完

Yuji N. 時刻: 14:16

共有

<

ホーム

ウェブ バージョンを表示

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.
